デイリー・マーケット・レポート

東京市場デイリー・レビュー／2026 年 11 月 20 日（金） 発行：ていネコの投資ノート

1．本日のサマリー

- 日経平均は前日比 3,007.56 円安（-5.06%）の 56,436.65 円と 3 日ぶりに大幅反落し、下げ幅は歴代 5 位となった。終値ベースで約 7 カ月ぶりの安値で、この日の安値で引けた。TOPIX も 148.25 ポイント安（-3.88%）の 3,674.22 と 5 日続落した。
- 市況報道では前日の米国株安が売り材料に挙げられた。米国では AI 開発大手アンソロピックの上場後に AI・半導体株が売られたと報じられ、NY ダウは 1,101.11 ドル安、SOX 指数は 2.41%安。東京でも値がさの半導体関連株とソフトバンクグループが大きく下げた。
- 東証プライムの値下がり銘柄は 1,443、値上がりは 90 にとどまるほぼ全面安。33 業種中 31 業種が下落し、上昇は保険業（+0.65%）と空運業（+0.33%）だけだった。非鉄金属が-9.90%と下落率首位で、電気機器、ガラス・土石製品、機械が続いた。
- 韓国 KOSPI が 5.21%安、台湾加権指数が 6.23%安と、半導体比重の高いアジア市場も総崩れとなった。債券先物は続伸し、ドル円は 159 円台前半へ円高が進んだ。東京市場は 23 日の勤労感謝の日まで 3 連休に入る。

2．主要指標

指標	水準	前日比	備考
日経平均	56,436.65 円	-3,007.56	-5.06%。3 日ぶり反落、安値引け
TOPIX	3,674.22	-148.25	-3.88%。5 日続落
NT 倍率（日経平均÷TOPIX）	15.36 倍		19 日は 15.55 倍（筆者算出）
東証プライム 売買代金	8 兆 6,389 億円		概算。売買高は 30 億 8,563 万株
値上がり／値下がり銘柄数	90／1,443		変わらず 18（株探集計）
長期国債先物 12 月限	127.00 円	+0.35	続伸。高値 127.04 円
NY ダウ（19 日）	49,097.06 ドル	-1,101.11	-2.19%。4 日続落、終値で 5 万ドル割れ
S&P500（19 日）	7,175.83	-147.80	-2.02%。続落
ナスダック総合（19 日）	23,879.20	-550.68	-2.25%。反落
SOX 指数（19 日）	9,419.72	-233.08	-2.41%。半導体株に売り
VIX 指数（19 日）	28.44	+3.88	3 月以来の高水準
韓国 KOSPI	4,869.96	-267.93	-5.21%。反落
上海総合指数	3,533.79	-43.82	-1.22%。銀行株が下支え
台湾加権指数	36,033.29	-2,393.60	-6.23%。半導体株に売り
ドル円（15 時時点）	159.16 円	-0.53	NY 終値比。日中 159.05～159.84 円
ユーロ円（15 時時点）	174.74 円	-0.40	NY 終値比
WTI 原油 12 月限（19 日）	83.21 ドル	-0.05	清算値。約 3 カ月ぶり安値
NY 金 12 月限（19 日）	3,685.5 ドル	-56.4	-1.51%。清算値

3．株式市場

寄り付きから売り先行、後場に一段安で安値引け

日経平均は 892.65 円安の 58,551.56 円で寄り付き、米国株安と大阪取引所の夜間取引での先物安を背景に売りが先行した。10 月の全国消費者物価指数（生鮮食品を除くコア）は前年同月比 2.2%上昇と市場予想を下回ったが、株式市場の反応は乏しかった。韓国・台湾の株価も大きく下げる中、後場は下げ幅を広げた。11 月 6 日の安値を下回り、そのままこの日の安値で取引を終えた。始値からの下げ幅は 2,114.91 円（筆者算出）に及び、寄り付き後も戻りらしい戻りのない一方的な展開だった。

商いを伴った全面安、3 連休前の手じまいも

東証プライムの売買代金は概算で 8 兆 6,389 億円と、前日（確報値 7 兆 7,190 億円）を大きく上回った。値下がり銘柄は 1,443、下落業種は 33 業種中 31 業種に及び、ほぼ全面安の中で商いが膨らんだ。市況報道では、週末と祝日が重なる 3 連休を前に、持ち高を持ち越したくない投資家の手じまい売りも指摘された。

値がさの半導体株とソフトバンク G が大幅安

大きく下げたのは、日経平均への影響が大きい値がさ株のアドバンテスト、東京エレクトロン、ソフトバンクグループで、キオクシアホールディングス、フジクラ、イビデン、TDK、ディスコ、レーザーテックなど AI・データセンター関連も軒並み大幅安となった。前日の米国では半導体大手 AMD の急落も重なり、SOX 指数は 2.41%安となっており、市況報道ではこの米国の流れが売り材料に挙げられた。個別では、ロシア子会社を連結対象から外すことに伴い業績と配当の予想を大幅に引き下げた JT が急落した。三菱 UFJ フィナンシャル・グループ、トヨタ自動車、ソニーグループなど主力の大型株も売られた。

逆行高は損保と医薬品の一部にとどまる

上昇したのは東京海上ホールディングス、MS&AD インシュアランスグループホールディングス、SOMPO ホールディングスの損保大手と、武田薬品工業、大塚ホールディングスなどの医薬品株、野村総合研究所など一部に限られた。トレンドマイクロは国内大手証券による目標株価の引き上げを受けて逆行高となった。景気や金利の変動を受けにくいとされる銘柄が相対的に底堅く、業種別でも保険業が上昇率首位となった。新興市場も東証グロース市場指数が続落し、年初来安値を更新した。

4．本日の主題：値がさ株が広げた日経平均とTOPIXの下げ幅の差

この日の騰落率は日経平均が-5.06%、TOPIXが-3.88%で、差は1.18ポイントに達した（筆者算出）。日経平均をTOPIXで割ったNT倍率は、19日の15.55倍から15.36倍へ低下した。

伏線は今週前半にあった。日経平均は18日に163.85円高、19日に419.93円高と2日続けて上昇したが、同じ両日にTOPIXは16.02ポイント安、1.53ポイント安と下げていた。両日の日経平均の上昇は、寄与度の大きい一部の値がさ株に支えられ、市場全体の広がりを伴っていなかったことになる。NT倍率は17日の15.33倍から19日には15.55倍へ上昇していたが、20日は15.36倍に低下し、その乖離が縮小した（筆者算出）。

ただし、この日の下げを半導体株だけで説明することはできない。銀行業（-4.95%）や証券業（-4.74%）など金融株も大きく下げ、TOPIX自体も4%近い下落となった。市況報道では、FRBの12月利上げ観測とAI投資の収益化への疑念が売り材料に挙げられている。週間では日経平均が4,705.70円安（7.70%安）、TOPIXが267.35ポイント安（6.78%安）となり（いずれも筆者算出）、週前半の日経平均だけが上がる相場から、週末は幅広い下落へと相場の形が変わった。

5．債券・金利

株価が急落する中で国債には買いが入り、長期国債先物12月限は前日比0.35円高の127.00円と続伸した。新発10年物国債利回りも低下したが、引け時点の水準が出典によって食い違ったため、本稿では数値の掲載を見送った。

10月の全国消費者物価指数は、コアが前年同月比2.2%上昇（9月は2.1%）、生鮮食品とエネルギーを除く総合（コアコア）は2.2%上昇（9月は2.4%）だった。コアの上昇率は前月から高まった一方、コアコアの上昇率は鈍化した。米国でも長期金利は小幅に低下したが、FRBの利上げ継続観測は根強い。

6．為替・商品

ドル円は15時時点（日本時間）で159.16円と、NY終値比0.53円の円高・ドル安となった。日中は物価統計の発表後に159.84円まで上げたが、日経平均が下げ幅を広げる中で円高方向に動き、159.05円まで押し戻された。ユーロ円も174.74円と、NY終値比0.40円の円高だった。

19日のWTI原油12月限は0.05ドル安の83.21ドルと小幅続落し、清算値として約3カ月ぶりの安値をつけた。市況報道では、供給回復の見通しと中東情勢が材料に挙げられた。NY金12月限は56.4ドル安（-1.51%）の3,685.5ドルと下落した。市況報道ではFRB高官のタカ派的な発言が売り材料に挙げられた。

7．海外市場の動向

19日の米国市場では、アンソロピックが公開価格83ドルに対し111.50ドルで初値をつけ、終値も公開価格比17%高で上場初日を終えた。一方、市況報道ではAI関連株への利益確定売りが指摘され、NYダウは4日続落して終値で5万ドルを割り込んだ。S&P500は11業種すべてが下落して続落、ナスダック総合は反落した。

20日のアジア市場は全面安となった。韓国KOSPIは外国人と機関投資家の売り越しで5.21%安、台湾加権指数は6.23%安となった。一方、上海総合指数は銀行株などの高配当株が下支えして1.22%安にとどまり、香港ハンセン指数も1.89%安だった。下げ幅は、半導体株の比重が高い韓国・台湾で大きく、上海・香港では相対的に小さかった。

8．直近の推移

日付	日経平均	前日比	TOPIX	前日比	売買代金
11月16日(月)	59,662.02	-1,480.33	3,901.37	-40.20	7兆9,303億円
11月17日(火)	58,860.43	-801.59	3,840.02	-61.35	7兆9,154億円
11月18日(水)	59,024.28	+163.85	3,824.00	-16.02	8兆503億円
11月19日(木)	59,444.21	+419.93	3,822.47	-1.53	7兆7,190億円
11月20日(金)	56,436.65	-3,007.56	3,674.22	-148.25	8兆6,389億円

9．総括と注目点

本日は、米国でのアンソロピック上場後のAI・半導体株安が売り材料として報じられる中、日経平均が歴代5位の下げ幅を記録した一日だった。下落は東証プライムの1,443銘柄、33業種中31業種に及び、半導体株に限らない幅広い売りとなった。3連休中の米国市場の動きが、休み明けの東京市場の方向を大きく左右する。

- 23日（米国時間）：米PMI速報値。東京市場は3連休中
- デル・テクノロジーズの決算説明会：米国時間24日、日本時間25日。東京市場の3連休明けにあたる
- 25日（米国時間）：米GDP改定値・個人消費支出（PCE）、ベージュブック（米東部時間14時、日本時間26日4時）。国内では40年債入札。米国市場は現地26日に感謝祭で休場
- 27日：東京都区部の11月消費者物価指数で、基調的な物価の鈍化が続くか

【脚注】本稿の数値は2026年11月20日（金）17時台までに確認した公開情報に基づく。東証プライムの売買代金・売買高（当日分）は概算値、過去日は確報値。米国・商品の数値は19日（現地）の終値・清算値。前日比・騰落率は前営業日値から筆者が検算。NT倍率、騰落率差、週間の下落幅・率は筆者算出。「直近の推移」は、10年債利回りの確定ができなかったためTOPIXの前日比に差し替えた。ナスダック総合の前日比はFRED系列の18日終値から検算した-550.68を採用（株探・フィスコは-550.69）。WTIは共同通信・DZHの12月限の清算値83.21ドルを採用。株探の米国市場データの82.44ドルは、限月の切り替わり期で12月限とは別の限月の値とみられるため不採用。新発10年債利回りはフィスコ（2.767%）とDZH（2.785%）で、米10年債利回りも出典間で値が食い違ったため、水準の掲載を見送った。ドル円・ユーロ円の水準はDZHの15時時点の値のみで確認（単一出典、日中レンジはみんかぶFXと一致）、前日比はNY終値比。台湾加権指数は中央社のみで確認（単一出典）。香港ハンセン指数は界面新聞の騰落率のみで確認（単一出典、水準は未取得）。13日・16～18日のTOPIXはstock-marketdata.com（二次集計）のみで確認（単一出典）。

本稿は生成AIを用いて公開情報を整理・執筆した。出典：株探（株探ニュース、みんかぶ配信を含む）、フィスコ（財経新聞・Investing.com掲載）、共同通信・DZH（OANDA掲載）、media-ir、Business Insider Japan、Nasdaq、stock-marketdata.com、韓国fnnews、中央社、21世紀経済報道、界面新聞。

本資料は公開情報に基づく市況の整理であり、特定の銘柄の売買を推奨するものではありません。投資判断はご自身の責任でお願いいたします。